

# 印鑑・デザイン物語 第4回

第4回目は現代のはんこ社会が制定された明治時代についてです。



行政が細やかに整備され、商業が発達するにつれて、印鑑は庶民にまで普及していきました。

証文に用いられる印鑑は当時から実印と呼ばれ、これを代官に届けることで印鑑帳がつけられました。

1873年(明治6年)に太政官布告で「証書には本人の自署と実印が必要である」という「署名捺印」が法的

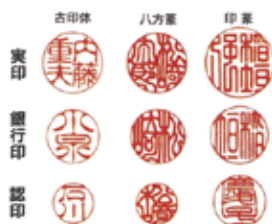


に定められ、実印のない証書は法律上、証拠にならず事実上実印を所持しなければならなくなりました。

明治時代の印影

その後、100年以上が経った現代においても、印鑑は我々日本人にとってある意味、命の次に大事な物になっており、ITが進化し続ける現代社会においてもあらゆるシーンで印鑑が必要不可欠なものなのです。

お江戸の昔から日本では、人生の節目には必ず印鑑があるのです。



1.契印、2.割印、3.訂正印、4.捨印、5.銀行印、6.認印、7.実印、8.代表印、9.役職印、10.職印・・・などなど、印鑑といっても用途や用法によって色んな意味を持っています。

同じ印鑑を押す場合でも、押す文書、押す場所によって、印鑑の意味は異なります。

## ロゴマーク銀行印をお作りしました!



印鑑に彫刻したロゴマークは、林グループ様の頭文字「h」を表していると同時に「人」という文字も表しています。

林グループ様の企業理念にも掲げてある従業員幸福企業、人材輩出企業、つまり共に働く社員「人」を大切に育て伸ばす、という想いが込められています。

### 今月の表紙

今年は残暑もほとんどなく、一気に秋に突入した感じですね。思いっきり秋を満喫したく思います。  
撮影地：福岡県八女市

### インプレス福岡株式会社 デザインはんこ

福岡市中央区赤坂1丁目11-13 大稲ビル4階 〒810-0042

✉ info@design-hanko.com

月～金/9:00～18:00 土/10:00～18:00 定休日/日曜・祝日

TEL:092-752-0888 FAX:092-752-0822

起業・独立をお考えの方はご相談ください。



# 2016 申歳 似顔絵年賀状

スタッフの顔を表に出して、  
お客様と共感を増やす

20 世紀は物の時代でしたが、この 21 世紀の現代は「人」の時代です。個人、個人の考え方や感じ方といった価値観が非常に重要です。

お客様と企業の関係ではなく、人と人として関係を築く事でより深く相手の事を理解し、「共感」できるポイントを増やす事が大切です。今後の世の中には益々そのような在り方が重要になってくる、と思います。



**10月5日(月)10時～  
受付開始!!**

※オリジナル手作りの為、先着で企業様10社、  
ご家族様10組とさせていただきます。



物を売るバカ  
川上徹也著 角川書店



サブタイトルの「売れない時代の新しい商品の売り方」の通り、近年、商品売る時、「価格」「品質」「広告」「流通」などの要素で差別化しても期待通りにモノが売れ続けることはほとんどありません。

商品の価値が的確に伝わり、感情が揺さぶれる要素があれば、お客様は共感してくれます。すると人は、商品を買いたい欲求が沸いてきて、買った商品が期待値以上であればファンになり、口コミも自然と広がってきます。

お客様の心を揺さぶり、更には共感を抱かせる価値の伝え方は、商品が本来持っている「価値を物語化」して発信すること、物語の持つ力をビジネスに導入していけば売れないモノも売れていくことが納得できます。

本書を読み進めながら、自社商品の価値がまだまだ的確に伝えられていないことを反省して、自社商品の価値の深さとその伝え方を再考したくなる一冊です。